

第3回 CS 記録

日時：令和8年2月24日（火）18:00～19:30

場所：北海道長万部高等学校 芸術教室他

参加者：16名

運営委員：8名

赤塚 顕二 様、亀田 純孝 様、岸上 尚生 様、小林 隆弘 様、斉藤 和博 様、
高野 暢子 様、辰巳 治典 様、中野 美貴 様

オブザーバー：3名

近藤 英隆 様、寒河江 孝之 様、柴野 貴史 様

長万部高等学校：5名

土屋 靖雅 校長、樋口 智一 教頭、沢瀬 久美子 教務部長、

松屋 良子 教務部副部長、山岸 みのり 教諭（地域連携担当教諭）

1 開会の言葉

2 校長挨拶

3 学校概要について

・資料説明

今年の出願者数が24名であった。町教委や中学校等に感謝したい。

黒松内中の生徒が0名になる。

「地域の子は地域で育てる」

中高部活動連携は試験的に実施している。

全校生徒が地域活動部に入部。

内規等の改正（部活動、卒業要件等）

学校ではできない社会教育の重要性

4 協議事項について

資料確認

5 諸連絡

6 閉会の言葉

7 部会

<探究部会>

・次年度、長万部中学 3 年生は仲が良い。先輩を気にせずに、JR 通学が大変だと考え、入学希望している様子だ。

・4・5 年後の生徒のことよりも、今の生徒達のために何が出来るか、どう出来るかが大事。寿都高校は、送迎があるため、本校もスクールバスを出したら来るのでは？

給食費や交通費が無料であることに関しては、生徒の祖父母は良いと考え、孫達に勧めている様子。一方で親世代は生徒が長万部高校を志望していても、「長万部高校で本当に良いのか？」と違う考えの方がいるようだ。生徒へのアプローチも大事だが、小・中学生の親世代に対してもアプローチしていくことが必要だと考える。

・先生方の魅力を発信すること、子どもが行きたいところへ行かせるべきだと考える。子ども達は単純なことで志望先を決めている。楽しいことを作り、地域と絡めていくと良いのではないか。

・地域連携で行えること、地域の人材をうまく活用してほしい。協力していきたい。

・10 月に行われた懇談会では現在、長万部中学校在籍の保護者も参加しており良かった。

その中で出た話題の中で、少人数でも行えるイベントを増やして、もっと交流の機会を設け、紙や資料だけではなく、直接会話をすること、伝えていくことが大切だと感じた。

・長万部高校はいじめがないなど、先輩方や兄弟姉妹の話聞いて、志望した生徒もいるようだ。

・オープンスクール等で、指定校推薦枠があることや、実際、大学進学希望が叶った生徒からの声を動画等で流してはどうか。言葉で伝えるだけでなく、実際の卒業生が話している様子を見せた方が説得力がある。

・次年度、入学志望生徒が 24 人に増えた理由を、生徒本人にフランクな感じでインタビューし、中学生に見せていくのも、良い宣伝効果になるのでは良いか。

・長万部町にずっと生活しているより長万部町を一度は出てみて、地域の良さを知ると良い。もちろん出るタイミングも大事だが、戻って来られる、戻って来たい場所を作っていけると良いのではないか。地域の人々が大事で、魅力ある町にするために、良いふるさとを伝承していけると良いのではないか。

・探究や地域連携の授業で「どんな町なら帰ってきたいか？」と問いかけ、長万部の良いところを出していき、活性化につなげてはどうか。

・学校祭で、コロナ以前、もっと学校規模が大きい時に、ファイヤーストーム、花火、パレード、駅前パフォーマンス等を行っていたので、動画や写真を今の生徒達に見せ、それらの内容を復活させ、盛り上げていけたら良いのではないか。

<地域連携部会・学力向上部会>

- 人口も減少中、いつまでこんなことが続くのか。小中高一貫で進めていかないと人は減るばかり。
- 現在の小学4年生から人数が減っている。
- 黒松内の中学生は母親と家を出て札幌へ進学している子が多い。子どもが行きたいところに行く傾向がある。
- 今の中学3年生は学力は低いが、「数学が好き」という意欲が高い生徒は全国平均より多い。今の中学2年生は男子が少ない。
- 部活動の地域連携について、野球とサッカーは町内での受入先がありそう。吹奏楽や卓球は厳しい。
- 地域出前講座の活用もできるのではないかな。
- 町教委が1000万円予算立てして、eスポーツ部を設立したら生徒は来るのではないかな。
- 地域懇談会で出た町の人声を上げて、CSの各部会で話題にするとよい。
- 小中の学校だよりは図書館にあるが、高校はない。ただし、実際に閲覧されている様子は少ない。
- 生徒の授業等の成果物（掲示）を学習文化センターに掲示してもいいのではないかな。
- ポスターを町内に掲示してもなかなか見てもらえない。
- 生徒の「感性」を活かした地域連携を進めていくのも面白い。